

## 学びのデザインシート（授業前）

### 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【公民／政治・経済】

#### 1. 対象（実施を想定する学校・生徒の実態の概要）

商業科3年生のクラスで、6割の生徒は進学、4割の生徒は就職を希望している。生徒は授業中も教員の話の静かに聞くことができる。毎時間の始業時に生徒は「ニュース発表」というプレゼンを実践しているため、発言力を鍛え、聴く姿勢を整えることができている。これに加えて、就職希望者の採用試験が9月から始まることもあり、授業と時事問題とのつながりを意識するよう、生徒の関心や意欲も高まってきている。

#### 2. 単元名「日本国憲法の改正」（全12時間）

#### 3. 単元目標

日本国憲法の成立過程や、現在の日本を取り巻く国際情勢を学ぶことを通して、他国の憲法を参照しながら、日本国憲法の改正について、考察を深める。

#### 4. 本時の目標

日本国憲法や日本を取り巻く国際情勢についてのこれまでの学習を踏まえて【知識・理解】、  
政党の憲法改正案や各国の憲法を参照しながら【資料活用の技能】、  
日本国憲法の改正案（9条の条文）の原案を作成した上で【思考・判断・表現】、  
グループで協議して改正案をまとめる【関心・意欲・態度】。

#### 5. 授業展開

解決したい課題や問い
安倍総理が「2020年までに憲法を改正する」と表明したこと（2017年5月3日）を踏まえ、改憲の国民投票で責任ある一票を投じるために、新しい憲法はどうあるべきかをよく考えておきたい。そのために、特に9条について、その条文の案を様々な資料を参考にしながら自分達で作ってみよう。

考えるための材料A	考えるための材料B	考えるための材料C
前時までの授業プリント 自衛隊 国際紛争 国際政治等	自民党による改憲案	各国の憲法 スイス（中立） 中国、韓国（軍保持） コスタリカ、パナマ（軍不保持）
想定される活動	想定される活動	想定される活動
<日本を中心とした世界の政治・平和問題の考察> 自衛隊の行動規定、日本が関わる国際紛争、戦後の国際政治の枠組み等をとらえ直して、我が国の平和・安全保障をおびやかす問題があることに気づき、国防および世界平和のためにどのような憲法が必要かを考える視野を広げる。	<改憲のポイントをとらえる> 現行の9条と改正案とでどこが違うのかを理解することにより、改正の論点はどこかをとらえる。（国防軍・国際貢献・戦争放棄等）	<各国の憲法の比較・考察> 現在の各国の憲法の国防条項に関する部分を読み、日本国憲法9条とその改正案とは異なる発想があることに気づき、自らが作成する憲法改正案の参考にする。

## 対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

### 対話の方法

#### 【講義】（15分）

憲法9条の改憲案を考えるための資料の紹介。  
前時までの学習（自衛隊と我が国の安全保障・国際紛争・国際秩序等）の振り返り。

#### 【個別学習】【エキスパート活動】（30分）

各自に割り振られた各国の憲法や自民党による改憲案を読み、改憲のポイントや、日本国憲法との違い・安全保障に関する憲法上の規定を把握する。

#### 【ジグソー活動】（30分）

各国の憲法と自民党による改憲案を参考にして、まず自分で改憲案を作成する。  
次に、各自の改憲案を発表しながら、グループとして1つの条文にまとめる。

#### 【クロストーク】（10分）

各グループの改憲案を発表し合う。

### 思考のプロセス

#### 【講義】

憲法を改正する必要があると思われる、我が国を取り巻く国際情勢を理解する。

#### 【個別学習】

憲法9条のどこをどのように変えればよいのかを考える視点を得る。

#### 【エキスパート活動】・【ジグソー活動】

現在の各国の憲法を参考にしながら、改憲案を作成するための多面的な視点を得る。

#### 【ジグソー活動】・【クロストーク】

自分の言葉で改憲案を作成することで、主体的な学習を行う。  
話し合いや発表により、多角的な見方・考え方を養う。

## 学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

### 急進派の条文

昨今の国際情勢（日米関係、北朝鮮や中国の動向）を考えると、自分の国は自分で守れるようになる必要があるため、国防軍を作り、自衛のための戦いはもちろん、日本と世界の平和を守るための国際貢献活動も積極的に行う。アメリカの核の傘下ではなく、自らの核武装も辞さない。

### 中道の条文

現状に合わせて憲法の言辞を整える程度の改憲でよい。「軍隊の不保持」を「国防軍の創設」に変えるのみ。

### 保守派の条文

戦争放棄・軍隊の不保持を謳った現行憲法は素晴らしいものなので、憲法を変えずに、現在の憲法に合うように日本の在り方を考え直すべき（自衛隊は違憲であり、自衛隊の海外派遣も行うべきではない）。

## 育成すべき資質・能力三つの柱から上記のあらわれを評価するための視点

①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"><li>・自衛隊や国際紛争など、前時までの学習事項を適切に理解している。</li><li>・前時までの学習事項を踏まえて改憲案を作成している。</li></ul>
②思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"><li>・自民党による改憲案をもとに、改憲の論点を適切に把握して考えている。</li><li>・各国の憲法から、日本国憲法にはない国防条項を読み取っている。</li><li>・考えるための材料A・B・Cを総合的に使いながら改憲案を作成している。</li></ul>
③主体性・学びに向かう力 協働性など	<ul style="list-style-type: none"><li>・個別学習において、改憲のポイントを適切に理解しようとしている。</li><li>・一連のジグソー学習において、エキスパート学習・説明・リスニング・話し合いを積極的に行っている。</li><li>・ジグソー活動やクロストークにおいて、自分とは異なる様々な意見があることに気付く。</li><li>・日本の最高法規たる憲法の改正案が本当にこれでよいのか、あらためて考え始める。</li></ul>

### 授業実践振り返りシート（授業前後）

授業開始直後と授業終了時の学習課題に対する考え（あらわれ）を比較・分析することで、生徒の学習状況を把握し、授業設計診断4項目の視点に立って授業設計を見直す。

	授業開始直後の学習課題に対する考え	授業終了時の学習課題に対する考え
Aさん	<ul style="list-style-type: none"> <li>武器を持つことに反対しない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①日本は、国際平和を維持するために、戦争はしない。</li> <li>②陸海空軍その他の戦力は、国の安全及び住民の保護のためならば、武力による威嚇又は武力の行使を認める。</li> <li>③他の国とのつながりを作り、仲間が多いことを示す。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>今朝鮮でミサイル実験がされていて、いつ日本に攻撃してくるか分からないから、そのための準備。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平和のために戦争はしないけど、日本を守るためなら、いざという時は行動に出る、日本という国をなめるなど他国に見せつける。</li> </ul>
Bさん	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦争をしない。国の交戦権を認めない。</li> <li>他の国が戦争しても、協力することはできない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他国が攻めてきた時には、自国を守るために戦い、軍を強めていく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>今まで通りの戦争無しの平和な国が良いと思ったから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>もしアメリカなどが守ってくれなくなったら、日本は戦えないから、準備のためにも強めていった方がよいと思ったから。</li> </ul>
Cさん	①日本国民は、	①日本国民は、正義を基調とする国際平和を求め、攻撃された時のみ、武力の威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段として、これを認める。
		②前項の目的を達するため、攻撃された時のみ、陸海空軍その他の武力を保持しても良い。 国を守ることが第一だから、軍事力を高めて、攻められた時のみ戦った方がよいと思ったから。

### 授業設計の振り返り

<p><b>解決したい課題や問い</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>憲法改正や北朝鮮のニュースがあり、国防は身近なテーマとなっていた。</li> <li>「憲法9条の改憲案とその理由を書く」という焦点化された明確な課題を設定することができた。</li> <li>平和条項は維持して、国防条項を考えるという課題にしたので、現在の憲法を変更しないという選択肢は排除した。そのため、護憲派や、非武装、アメリカや国連に頼るといった立場の解答は現れなかった。</li> <li>国防条項について、対話することにより、生徒は自分では思いつかない考えに出会ったり、自分の考えが揺さぶられたりする体験をしていた。また、興味・関心を持って主体的に深く考えていくことで、学ぶ喜びを感じている者も多くいた。 「自分だけでは思いつかない意見がたくさん出てきて面白かった」 「1人で考えるよりたくさんの人から案を出してもらい皆で作った方がいいものが作れたんじゃないかなと思いました」 「1人で考えるよりも意見がたくさん出るし、皆でまとめるとよりよいものができると思った」 「他者の意見を聴くことで、自分が出した結論の見方も変わる」 「あんなに憲法について深く考えたことはなかったのに、考えていくと中々面白くて、今後の日本がさらに良い国になっていくための案だから、とても楽しくてよかった」</li> </ul>
--------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>考えるための材料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際情勢、自衛隊、領土問題等の事前学習事項と、自民党の改憲案、各国の憲法（中立国・軍隊のない国・軍隊のある国）という多様な材料があったので、難しい課題であるが、多角的・多面的な視点から考えることができていた。</li> <li>従来独立した単元として扱う項目を、「9条を考える」という1つの単元のもとに束ねつつ、最終的に9条を考えることにつなげていくという問題意識とモチベーションを持たせ続けてきたので、生徒の意識の中で、幅広い学習事項が1つの課題に集約されながらこれまでの学習が続けられてきた。そのため、今回の課題に対してもスムーズに取り組めたと思われる。</li> <li>軍事規定の改憲は、国論を2分する、答えのない問題だが、生徒達は材料をもとによく集中して幅広い視野から活発に考えていた。</li> </ul>
<p>対話と思考</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エキスパート活動と、ジグソー活動・クロストークを2時間の授業に分割したので、考える時間を確保することができた。</li> <li>個人的に考えをまとめる時間と、それをグループ内で発表する時間、さらに質疑応答をしながらグループの結論をまとめる時間を分け、それぞれの活動の目標や取り組み姿勢について適切に指導できたので、メリハリのある対話と、ワークシートの読み上げ・紹介に終わることのない協議ができていた。</li> <li>コミュニケーション力を養成するレクをこれまでの授業でこまめに取り入れて来たので、個人のコミユ力と集団の信頼感の醸成がある程度できていたため、対話や発表時に積極的に取り組む姿が見られた。</li> <li>クロストークの発表においては、毎時間の生徒によるニュース発表というプレゼンの効果があり、堂々とした態度で発表できていた。</li> <li>対話による意見の広がり・深まりや、触発・変容を感じている者が多かった。 「他の人の意見の中で良いところをまとめて、自分の意見の良いところと混ぜて考えて答えを導き出すのは楽しかった。発見とか色々な考え方があったから」 「4人とも同じ意見を持っていたり、話し合ってみて、それもいいかもって納得する意見もあったり、4人で1つの憲法を作る達成感があって楽しかった」 「様々な意見が混ざって、広がっていく楽しさを感じることができた」 「戦争を一切しないっていう方法もあるけど、少しはするっていう考えもあるなと思いました。他の人の意見を聴いて、国際平和を守るのもいいなと思いました。日本だけじゃなく国際協力をして味方を増やしていけたらいいなと思いました」</li> </ul>
<p>学習の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エキスパート課題だけでなく、既習事項からも知識・概念を活用しており、知識の定着が見られた。</li> <li>既存の憲法の“コピペ”ではなく、諸資料をもとに自分の言葉で考えて意見をまとめている生徒が多く、そのクオリティの高さに驚いた。</li> <li>今回学んだ知識・技能は、今後の国民投票や選挙において活用されるであろう。</li> <li>課題に対する考えそのものは、授業前後で変わらない者が多かったが、諸資料の検討と協議を経て、考えを的確に表現する力や考えを根拠を持って示す力は、多くの生徒において向上していた。授業前後に同じ課題を書かせたので、今回の課題に対する自分の知識・思考力の向上を自覚できたと思われる。</li> <li>授業実践者と参観者による評価を、後日生徒に伝えることで、生徒はこれまでの自分の取り組み・努力によって、相当に思考力・表現力・集中力・主体性・コミュニケーション力がついたことを肯定的に実感できたと思われる。</li> <li>授業前後で「政治に関する興味・関心」が高まった者は、91%いたことから、今回の学習が次の主体的な学習につながっていくものと予想される。 「自分なりの言葉で伝えられたし、コミュニケーション力も上がったと思う」 「憲法を知らないといけないと思ったし、これから自分たちが考えていかなければいけない使命感も感じました」 「18才になり選挙や投票できる年齢になったので、自分の考えが日本に影響すると考えたらとても重要だと改めて感じ、次の日から政治のニュースをしっかりと見るようになった」 「ひとまず自分になって欲しい憲法を作ることができたので、これをもとにもっと掘り下げて、自分の意見をしっかりとって投票に行きたい」</li> </ul>